

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年一月二十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆  
陸軍 大臣伯爵大山 巖  
海軍 大臣伯爵西郷從道

●法律第一號

徵兵令(摘要)

第二章 服役

第十三條 滿十七歲以上滿二十八歲以下ニシテ官立學校小學校及養科等ノ別科ヲ除ク府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ  
一年志願兵ノ豫備役後備役年期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
滿十七歲以上二十八歲以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教

廿八年三月法律第  
十五號ヲ以テ各條  
改正  
二十二年十一月法  
律第廿九號ヲ以テ  
第十一條中改正  
廿六年三月法律第  
四號ヲ以テ第十一  
條中改正  
現第十三條ハ舊第  
十一條

職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給トス  
前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歲迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラ  
スシテ更ニ二箇年間陸軍現役及常例ノ豫備役後備役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志  
願スル者ハ此限ニ在ラス

第三章 免役延期及猶豫

第二十一條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫  
ス其事故滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ  
之ヲ徵集ス但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル  
者ハ此限ニ在ラス  
外國ニ在ル者朝鮮國ニ在ル者ヲ除クハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿二十二歲マテニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法  
ニ依ラスシテ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一  
年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニアラス

第七章 附則

第三十五條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過  
クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
第三十九條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年  
以內ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志  
願兵ヲ志願スルコトヲ得

二十二年十一月法  
律第廿九號ヲ以テ  
第十一條中改正  
廿六年三月法律第  
四號ヲ以テ第十一  
條中改正

廿六年三月法律第  
四號ヲ以テ舊第四  
十一條即現第三十  
九條中改正



朕官吏恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

- 内閣總理大臣伯爵山縣有朋
- 内務大臣伯爵西郷從道
- 司法大臣伯爵山田顯義
- 大藏大臣伯爵松方正義
- 陸軍大臣伯爵大山 巖
- 遞信大臣伯爵後藤藤象二郎
- 外務大臣子爵青木周藏
- 海軍大臣子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

明治二十三年六月二十日

●法律第四十三號

官吏恩給法(摘要)

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシテ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十五年ノ額トス  
(第二項第三項ハ略ス)

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷痍疾病引續キ重症ニ趨キタルハ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二個年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三個年

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中ノ日數

三 從軍年加算ノ年月

四 非職及休職中ノ月數

五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數

六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスシテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルハ前官年數ヲ後官年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス



二 退官現時ノ俸給前後相同シキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前官十五年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ増加セズ

第十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十八條 恩給ハ賣買讓與買入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス、朕官吏遺族扶助法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

- 内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
- 內務大臣 伯爵 西鄉從道
- 司法大臣 伯爵 山田顯義
- 大藏大臣 伯爵 松方正義
- 陸軍大臣 伯爵 大山 巖
- 遞信大臣 伯爵 後藤象二郎
- 外務大臣 子爵 青木周藏
- 海軍大臣 子爵 樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

●法律第四十四號

明治二十三年六月廿日

官吏遺族扶助法(摘要)

第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス  
公務ノ爲メ受ケタル傷殘ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第五條 寡婦ナキハ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

第六條 孤兒扶助料ハ數子アルハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非ル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス

第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫與官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齡廿歲未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戶籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルハ其父母又ハ祖父父母アルハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セザルハ若クハ權利消滅シタルハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖



父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歳未満又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ賣買讓與賣入スルコトヲ得ヌ又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ヌ

第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戶籍ヲ去リタル月ノ翌月

二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齢二十歳ニ滿チタル月ノ翌月

三 父母祖父母死去シ又ハ戶籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戶籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルハ扶助料ノ支給ヲ廢ス

公權ヲ停止セラレタルハ其間支給ヲ停止ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第十七條 在官十五年未満ノ者在官中公務ノ故ニアラスシテ死去シタルハ其遺族ニ一時扶助金

ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ俸給年額百分ノ一ヲ在官年數ニ乗シタル額トス但一年未満ノ在官月數ハ計算セス

朕登記印紙ヲ以テ手数料ヲ納ムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年十二月十六日

内閣總理大臣兼大藏大臣伯爵松方正義

●勅令第二百四十五號

政府ニ納ムヘキ手数料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得但其種目ハ主務大臣之ヲ定ム

本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿六年四月十三日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
内務大臣伯爵井上馨

●法律第十四號(摘要)

集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ政



治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第三條 屋外ニ於テ公眾ヲ會同シ若ハ多衆運動セントスルキハ發起人ヨリ廿四時間以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ体育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス  
(二項略ス)

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス  
(一、二款略ス)

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒  
(四、五款及二項略ス)

第九條 集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
(二項略ス)

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス  
(一、二款略ス)

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

(四、五、六款略ス)

第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス  
(二項略ス)

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十月三十日

- 内閣總理大臣 伯爵 伊藤博文
- 逓信大臣 伯爵 黑田清隆
- 海軍大臣 伯爵 西鄉從道
- 內務大臣 伯爵 井上馨
- 陸軍大臣 伯爵 大山巖
- 農商務大臣 伯爵 後藤藤象二郎
- 外務大臣 陸奥宗光
- 大藏大臣 渡邊國武
- 文部大臣 井上毅
- 司法大臣 芳川顯正

●勅令第二百二十二號

各省官制通則(摘要)



第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信ノ各省ニ適用ス

第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其責ニ任ス

(二項略ス)  
第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコアルキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルキハ其命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

(第七條第八條略ス)

第九條 各省大臣事故アルキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其職務ヲ臨時次官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 機密ニ屬スル事項
- 二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
- 三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
- 四 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項

五 統計報告ノ調製ニ關スル事項

六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

七 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項

八 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

九 其他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

(二項略ス)

第十一條 各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

(二項略ス)

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

次官

局長

參事官

秘書官

書記官

屬

(第十五條以下略ス)

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



御名 御璽

明治二十六年十月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
文部大臣 井上 毅

勅令第四百四十四號

文部省官制

- 第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 公立學校職員ノ進退身分ニ關スル事項
  - 二 教員檢定ニ關スル事項
  - 三 教科用圖書ニ關スル事項
  - 四 教員退隱料及遺族扶助料ニ關スル事項
- 第三條 文部省專任參事官ハ五人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 文部省參事官ハ通則ニ掲クル職務ノ外學事ノ視察及學校檢閲ノ事ヲ掌ル
- 第四條 文部省ニ左ノ二局ヲ置ク
  - 專門學務局
  - 普通學務局
- 第五條 專門學務局長及普通學務局長ハ勅任トス
- 第六條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 大學校及高等專門學校ニ關スル事項

- 二 中學校ニ關スル事項
  - 三 專門學校及技藝學校ニ關スル事項
  - 四 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
  - 五 東京圖書館、天文臺等ニ關スル事項
  - 六 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
  - 七 學術技藝ノ保護獎勵ニ關スル事項
  - 八 學士會院ニ關スル事項
- 第七條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 師範學校ニ關スル事項
  - 二 小學校ニ關スル事項
  - 三 高等女學校ニ關スル事項
  - 四 幼稚園及盲聾學校其他小學校ニ類スル各種學校ニ關スル事項
  - 五 圖書館、教育博物館及教育會ニ關スル事項
  - 六 通俗教育ニ關スル事項
  - 七 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
  - 八 郡視學及市町村學務委員ニ關スル事項
- 第八條 文部省ニ技師二人ヲ置ク學校建築ニ關スル事ヲ掌ル
- 第九條 文部省屬ハ八十人ヲ以テ定員トス
- 附則
- 第十條 本令ハ明治二十六年十一月十日ヨリ施行ス



朕地方官々制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
内務大臣伯爵井上馨

勅令第六十二號(摘要)

地方官々制

第一條 各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク

知事

書記官

警部長

收稅長

參事官

技師

典獄

屬

技手

警部

收稅屬

監獄書記

看守長

第二條 知事ハ一人勅任トス

第三條 書記官、警部長、收稅長、參事官及典獄ハ各一人奏任トス

第四條 風、警部、收稅屬、監獄書記及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

(人員略ス)

(二項三項略ス)

(第五條略ス)

第六條 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第七條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條 知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルハ其處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

(第九條略ス)

第十條 知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條 知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

(第十二條略ス)



第十三條 知事を故アルキハ書記官其職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルキハ内務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條 知事ハ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復ニ關スル事項

三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

第十六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

内務部

警察部

收稅部

監獄署

第十七條 内務部ニ四課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコトヲ如シ但知事ハ地方事務ノ情況ニヨリ内務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ増減スルコトヲ得

(第一課第二課畧ス)

第二課

一

學務、農工商務、兵事、社寺及戶口民籍ニ關スル事項

東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

(第四課畧ス)

(第十八條乃至第廿條畧ス)

第廿一條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、收稅長ハ收稅部長、曲獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第廿二條 内務部長事故アルキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其事務ヲ代理セシメ(以下畧ス)

(第廿三條第廿四條畧ス)

第廿五條 内務部各課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其課務ヲ處理ス

第廿六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

(第廿七條乃至第廿八條畧ス)

第廿九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長

郡書記

第四十條 (一項畧ス)

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條 郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條 郡長ハ郡書記ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得



第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條 郡長事故アルキハ上席郡書記其職務ヲ代理ス

第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條 郡書記ハ判任トス其定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

第四十八條 郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十條 各島廳ニ左ノ職員ヲ置ク

島司

島廳書記

第五十一條 島司ハ一人委任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務

ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條 島司ハ法律命令ニヨリ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコト

ヲ得

第五十三條 島司ハ島廳書記ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

第五十四條 島司ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條 島司事故アルキハ上席島廳書記其職務ヲ代理ス

第五十六條 島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五十七條 島廳書記ハ判任トス其定員ハ其府縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

第五十八條 島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第五十九條 本令ハ明治廿六年十二月一日ヨリ施行ス

朕法律命令ノ格式ヲ制定スルノ必要ヲ認メ茲ニ公公式ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年二月廿四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

●勅令第一號(摘要)

公公式

第一 法律命令(畧ス)

第二 布告

第十條 凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月廿六日第十四號布達ニ依ル

第十一條 天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條 北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條 法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノ

ハ第十條第十一條第十二條ノ例ニ依ラス

第三 印璽(畧ス)

二十二年十二月  
令第一號三十九號ヲ  
以テ改正



◎太政官達第十四號 明治十六年五月廿六日  
 今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

到達日數

京都府	四日	大坂府	四日	神奈川縣	即日
兵庫縣	四日	長崎縣	十一日	新潟縣	五日
埼玉縣	即日	群馬縣	即日	千葉縣	即日
茨城縣	二日	栃木縣	二日	三重縣	四日
愛知縣	三日	靜岡縣	二日	山梨縣	二日
滋賀縣	四日	岐阜縣	四日	長野縣	四日
宮城縣	五日	福島縣	四日	岩手縣	七日
青森縣	十日	山形縣	五日	秋田縣	八日
福井縣	八日	石川縣	七日	富山縣	六日
鳥取縣	七日	島根縣	八日	岡山縣	六日
廣嶋縣	七日	山口縣	八日	和歌山縣	六日
德島縣	六日	愛媛縣	九日	高知縣	八日
福岡縣	九日	大分縣	十一日	佐賀縣	十一日
熊本縣	十一日	宮崎縣	十一日	鹿兒島縣	十二日

但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開廳ノ日マテ舊管廳ノ到達日數ニ依ル  
 右布達候事

十九年二月勅令第一號  
 同令ニヨリ第十七號布告消滅

朕地方官廳ノ發スル命令ノ公布式ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿六年十月三十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文  
 内務大臣伯爵井上馨

◎勅令第九十九號

第一條 警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令及郡令ニハ其ノ警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令又ハ郡令ナルコトヲ明記シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事、島司又ハ郡長各之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ同日之ヲ公布スヘシ

第二條 警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ公布スルノ方法ハ警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令ノ定ムル所ニ依ル

第三條 警視廳令、北海道廳令及府縣令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲ケルモノヲ除クノ外警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令中ニ記入シタル公布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但島廳又ハ郡役所所在ノ島地ニ在テハ其所轄島廳又ハ郡役所ニ到達シタル日ヨリ起算シ其他ノ島地ニ在テハ所轄町村役場又ハ戸長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス

警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ發シタル印刷物ヲ管内一般ノ島廳、郡區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ島廳、郡役所、町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ發シタル印刷物若シハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

第四條 島廳令及郡令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲ケルモノヲ除クノ外島廳令又ハ郡令ニ記入シタル公

廿八年四月縣令第三十三號及廿六年十一月縣令第六十八號參照



布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但島廳及郡役所々在ノ地ヲ除クノ外島地ニ在テハ其所  
 轄町村役場又ハ戸長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス  
 島廳令及郡令ヲ登載シタル印刷物若クハ謄本ヲ部内一般ノ町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ  
 以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ登載  
 シタル印刷物若クハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

附則

第五條 北海道區長入發スル區令ニハ本令中郡令ニ關スル規程ヲ適用ス  
 第六條 本令ハ明治廿六年十二月一日ヨリ施行ス

宮内省達乙第七號 明治廿六年十二月廿五日

自今新年紀元節天長節ニ於テ非役正七位以下同勳七等以下在京ノ者ハ宮中ニ參賀シ地方ニ在ル者  
 ハ賀表ヲ上ルヘシ  
 但在官職ト雖凡判任官以下ハ本文ニ同シ

宮内省達乙第八號 明治廿六年十二月廿五日

新年紀元節天長節賀表書式左ノ通改正ス

賀表書式

一 新年ニ拜賀シ又ハ新年紀元節天長節ニ宮中へ參賀シ得ヘキモノニシテ地方ニ在ル者ハ第一第二  
 書式ニ據リ賀表ヲ式部職ニ差出スヘシ但連名ヲ以テスルモ妨ナシ  
 一 判任官准判任官判任得遇者ノ參賀又ハ賀表ヲ受ケタル各長官ハ第三書式ニ據リ言上書ヲ式部職

廿七年十月島根縣  
 訓令第百七十一號  
 參照

ニ差出スヘシ

第一書式

謹奉賀新年 紀元節 天長節	年月日	官位勳爵氏名
折目	折目	折目

横ニツ折

第二書式

謹奉賀新年 紀元節 天長節	年月日	位勳爵氏名
---------------------	-----	-------



第三書式

	<small>新 紀元節 天長節</small> 二付判任官准判任官判任待遇 一同之參賀相受此段及言上候也	年月日  長官氏名	
--	---	-----------------	--

料紙大廣奉書ヲ用フヘシ但美濃紙薄葉ヲ代用スルモ妨ナシ

明治二十八年五月十五日印刷  
明治二十八年六月十八日發行

著作者兼發行者

島根縣私立教育會事務所

島根縣松江市殿町拾九番屋敷ノ二

會長 齋藤熊太郎

島根縣松江市北堀百拾五番屋敷

印刷者 堀熊太郎

島根縣松江市松江分七百六拾壹番屋敷

印刷所 報光社

島根縣松江市殿町三百九拾七番屋敷



